

三永太陽保育園

子どもも当事者！自分事！ 一緒にやれば湧き出る発見！意欲、愛着、安心感！

保育環境づくりのポイント

本年度もまずは職員全員で「遊びを広げたい、変えたい場所・深めたい場所」を考え、結果をまとめるところから。今回は子ども達のルールのない遊びの選択肢を増やすべく『見晴台のような物』を作成しました。今年からは大人も子どもも「当事者」「自分事」として「やってみたい」から「やりたい」に変化していく心理的な環境の変化を大切に取り組みました。

～こどもたちのこの力を育みたい～

☑感じる・気付く力 ☑うごく力 ☑考える力
☑やりぬく力 ☑人とかかわる力

取組み内容

①自園に合った形を考える

～求める環境はそれぞれ違うはず！～

今の子ども達の遊びの様子や過ごし方から思いをまとめ、遊具を選択していきます。高さや大きさ、ねらいや遊びの予想やそこでしかできないこと、色々ありました。木村先生のアドバイスや他園さんの物を参考にさせて頂きながら、「三永太陽の遊具」として全体で作りに上げていきました。



②気持ちの変化

～「やってみたい」から「やりたい」へ～

なんとなく遊びの中で保育士を手伝う感覚から「やってみたいなあ」と環境づくりに参加し始めたK君。(年長・5歳児)作業をする中でその気持ちは「やりたい」へと姿を変え、研修(お勉強の時間)があると知るとその場で「何それ！そんなんあるん！おれも聞きたい！」と保育士に伝えました。

実際に研修に参加し、約一時間、集中して画面と先生を見つめていました。

「難しい話だから分らないでしょう」とか、「それよりこっこのほうが…」ではなく、やりたい気持ちを受け止める、大切に思う、その子から広がっていくかもしれない人的・心理的な環境づくりも見てみたいと願い、一人一人のしたい・やりたいを応援することの新しい方法に気付きました。

③大人の世界と子どもの世界

～同じ世界を増やせるように～

大人と子ども。教えてあげなきゃ、先に歩いてあげなきゃ、を辞め、同じ舞台で同じように立つ、過ごす、考える環境づくりも、ワークショップも、その後の遊びも、様々な場面を対等な目線でいられることが同じ世界を増やすことに繋がるのだと学びました。



<今回の取組みを通して>

大人も子どもも、同じ環境で同じ作業をして、同じように研修にも参加して。保育の姿勢が変わっていている、そんな取組みになりました。表面的な繋がりではなく、深い理解と信頼、互いに成長を促しあえる関係と場をつくっていききたいです！

副主任 堰本 憲太